竜丘村公民館報

No. 44

発行人 木下右治
編集人 編集部
印刷所 龍共印刷株式会社
発行所 竜丘村公民館

年頭の所感

村政の究極は村民の福祉増進

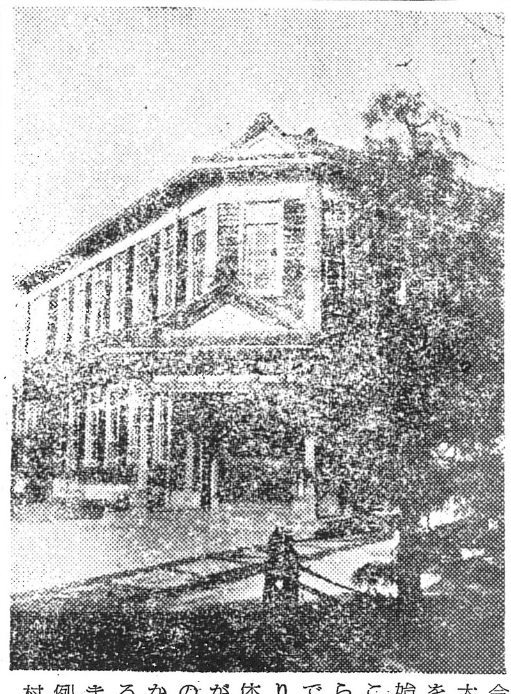
村長 林省三

茲に芽出度く昭和二十九年の新春を迎えまして、全村民の皆様と共に本村の彌栄を祝いますことは誠に御同慶に堪えません。昨年は政治的には国際的な休戦や講和の実が一層進められて、この点では明るさの増した年でありましたが、反面経済の上では稀にみる凶作となり、特に私共農村の者にとつては不幸な年で暮れました。新しく迎えました昭和二十九年を展望いたしますと、今日の地方公共団体は、戦後の民主的改革によつて法制上の立場は随分高められていますが、最近の国際的及我国の進運に伴い、今や一つの大きな転換を要求され始めていることが感じられますので、今年辺りがその具体的な動きが出てくるのではないかと思われるのであります。例えば市町村の合併、中学校の整備、税制の改正等で何れ一つを取上げてみても夫々重要な件と申さねばなりません。然し乍ら村自治行政とゆうものは、究極の所村民の福祉増進とゆうことが一番の眼目でありますので、自主的に且慎重に考えて進むつもりであります。

又経済面について考えてみますと、先づ昨年の凶作の傷手を克服して行くことは勿論ですが、此の際私共は抑々農村の産業（農商工業）が自立し、農村の自治が財政的に確立する為に必要な条件そのものを、一層計画的に推進強化して行くことが根本的な対策であると信ずるものであります。

取り敢えず年初より冬期間の現金収入を目途とする土木事業も、出来る丈多く施工し、将来村の治山治水、産業開発、商工発展の面を併せ考えて、実質的収入を当面の問題として実施いたす計画を立てました。

昭和二十九年はかように展望してみますと相当重要な年ではないかと思われますので、私としては一層の努力を尽す覚悟であります。皆様の御協力を切に御願いいたして年頭の御挨拶と致します。



二十九年度 竜丘消防團幹部決る

団長 前島秀夫
副団長 長沼保治
本部長 下平和夫
分団長 第一分団 吉川正己
〃 第二分団 田畑田一
〃 第三分団 窪田忠雄
〃 第四分団 下平禎
副分団長第一分団 木下純男
〃 第二分団 渡辺君夫
〃 第三分団 塚平銀次
〃 第四分団 中島章
火先班長第一分団 下平安治
〃 第二分団 小林三郎
〃 第三分団 井口安夫
〃 第四分団 岡村市郎
給水班長第一分団 大平馨
〃 第二分団 牧内一夫
〃 第三分団 横井安雄
〃 第四分団 岡村美文
救助班長第一分団 中島春郎
〃 第三分団 佐々木元
〃 第四分団 佐々木尚夫
機関長 第一分団 伊藤保直
〃 第二分団 今村栄一
〃 第三分団 塚平勉
〃 第四分団 中島哲
腕用班長第一分団 熊谷甲子夫
〃 第二分団 羽生寿郎
〃 第三分団 小林元
〃 第四分団 下平康治
本部付 第一分団 鈴木誠一
〃 第二分団 宮田国男
〃 第三分団 塚平晋
〃 第四分団 高島博

昭和二十九年度新入団者名
第一分団 矢沢甫 久保田竜男 吉川敬 折金正一 久保田善一 中平秋人 下平義之 下平将之 伊東隆直
第二分団 宮沢重雄
第三分団 塚平祐夫 笠岡明
第四分団 中島均 原四郎 原恒 桐生茂雄 林悟

退職團員
分団長 下平楠美 塩沢光次郎 増田清 林一夫
副分団長 牧島豊 中島武夫
班長 田中治夫 下平益男 吉川恒夫 熊谷正一 松長哲夫 松永敬一 下井田恒茂 原朝三 小林郁夫 今村寛治 原太二 林清己 牧内喜好
消防員 下平翠（伍長） 沢柳巧 中平貴剛 今村義光 小木曽弘 加藤甲男

随想リレー（五）

岡村美文

次のバトンは今村玄吾氏に渡された。

教養の無い者を「田舎者」と呼び低級な考えから出た言葉を「あれは百姓の言う事だ」と言う。私達農村に生活する者が聞けば以つての外だ。人を侮辱するも甚だしいと憤慨するのだが都市に住む者は平気で使うらしい。

いつだつたか放送座談会でうつかり「それは百姓の考えだ」とやつてしまつて問題を起した。あらゆる階層を聴衆にもつ放送はむづかしいものだと言う記事を読んだ事がある。

軽い日常の会話位なら我慢も出来ようが、政治や経済の仕組みが昔から今日に至るまで、農村に対しては「田舎者」扱いであり、いつも農村が暗膽たる運命を辿るべく政治がとられている。福島要一氏はその名著「米」に於て現在の農村はかつての高率小作料が依然として実質的に行われている。即ちかつての地主は現在は政府であり、小作米は供出米である。昭和二十二年二十三年に於る供出量は全国的に見ると生産量の丁度五〇％位に当る。しかも、その代金に等しい額が公租公課として収納されている。故に全農民はかつての小作百姓と何等変るところが無いと言つている。だから都市であざける所の農民の無知、貧困の責任は農村自体が負うべきではない。

然し私達の責任ではないと言つて手を拱いていたら救われる時はない。向上出来ないものか、豊かにして知性を持ち楽しい生活をかち得ている村はないものか、数ある実例の中から一、二拾いあげると、赤石山脈の向うの山梨県には富士見村がある。この村はテニス村として余りにも有名だ。百姓は朝に霜を踏み、夕に星をいただくと言う考え方はとうに捨てられた一日の仕事の量を定め計画的に手順良く行つて今迄以上の能率をあげて毎日明るい内に野良着のまゝテニスコートへ急ぐ、各所のテニスコートでは夕光に輝き乍らテニスの球が快いラケツトの音と共にとぶ。又、熊本県の岩野村では毎月十六日を公休日と定めて部落毎に、教養レクリエーション等の多彩な行事が村を挙つてくりひろげられる両村共、家族全体、村全体で行われるのであるから家中明るく楽しく、村中仲良く明朗となり知性も高まり、よい事はすぐ相談がまとまり、全村溌剌として産業の振興生活の改善、文化面の産業活動が推進されていると言う。

「田舎者」と言う言葉が無教養の代名詞であり、愚劣な方を「百姓の考え方」と呼ばれて来た過去から飛躍して生産能率が高く、楽しい生活の行われる農村となりたいものである。しかし、そこには障害がある。その障害の中に農村の根強い封建的な因習と、そして知性の向上をはばむ環境がありはしないか。或る時代に英国の婦人達は足巾の狭いのを優美と考え故意に左右から圧縮していた。そのくせ彼女達は、中国婦人の纏足の因習を甚だ愚劣と考え、これを廃止させるために寄附金を提供した。このように長い間大勢の人達に普及した因習の中に浸つていると、自分のもつている矛盾に気がつかない。その反面何か新しい事柄に対してはその是非にかゝわらず批難を浴びせる。

従来の因習を打破して新しい正しい社会通念を作り上げるには勉強が必要となる。高き知性が必要となる。知性を育てあげ理論を尊重するふん囲気が必要となる。良き部落、よき村は一夜にして成るものではない。本質的な考え方をもつ多くの団体、グループの力が努力し苦斗する内に前進するものである。全村民がそれをもりあげ協力する所に実るものである。私達は安易に諦める事なく、無自覚に現状の総てを肯定する事なく停滞より進歩へ、頑冥固陋なる因習の社会より、自由清新なる夢を持つ農村への歩みを期待する。

新しき年は何か明るい期待を持たせてくれるものである。

記者ぶらり訪問 若き者の話題を探る

新しき年一九五四年の春を迎えて目出たいと互いに祝うべきだ。あの考える事もいやな昨年の凶作は、この間の忘年会で全部忘れてしまつた。今日からは「今年こそは」と張切れる昭和二十九年だ。記者は一人村の中を歩いた。

◎「今年はいやに暖いな、これでは正月気分も出ないや、雪の三尺も降らなくては駄目だ、凶作でうれしくなつたおてんとう様はまた笑つているな、明日から農協のパンを三つかついで城手洞へ行く俺を見て、よせや、アジヤー」

◎「おい君、何をつまんない事を云つているんだ、時は一九五四年だよ、わが農業経営の王者は養蚕と酪農でなくては駄目だよ。繭は一〆目二〇〇〇円、乳は一升六〇円なんだよ、なにをくよ〳〵するなかれ、我等の力でもつと〳〵労働の生産性を高め健全な農業の確立を計らなくてはね」H3HC員

◎「いゝか会長は丸屋で副会長は良ちやんずら、あいつが体育部長でこいつが代議員か、かなり張切つている。こんな調子なら今年はすごいぞ、しかし考えてみるとー新年会と忘年会、常任委員会と代議員会、野球とダンスか、なんだつまんない、ヒラの俺には用なしかー何を云うあの選挙熱だつたんだから今年はちよつといけるぞ、御期待を乞うか」湯の瀬の窓より

◎「さのよい〳〵と、早く持つてこいど云うんだ、あんな娘がなんだと云うんだ、個性がないや、それよりかわれ〳〵は金が儲かりやあいゝんだ。建設省へでも行つて早くカメラでも貰つてあの娘でも撮れば個性が出るよ」昼の新年会

人間を作る教育の振興が重要

教育委員長 代田市郎

昭和弐拾九年の年頭に当り、国家の隆昌を祈願し併せて本村の将来を祝福いたします。

一昨年十一月地方教育委員会が発足を見まして以来漸く一年有余逐次其態勢を整えつゝ有りますが村の皆さんには其運営に財政の上に於て常に能く御力添えをして下さつた事を厚く御礼申上ます。

御承知の通り教育委員会は教育行政を掌る執行機関でありまして、教育の現場である学校や公民館等と直結して、其教育的活動が効果的に遂行せらるゝよう、その人事財政管理施設等各種の事務を適確有効に処理して来たのであります。

発足以来、日尚浅きに係らず地方の実情に即して教育方針を確立し、地方教育は自分等の手に依つて行わる可きであると云う様に、教育を身近に感じて一般の教育に対する熱意が高揚しつつある事は見逃す事の出来ない事実であると思うのであります。

顧つて独立日本の再建途上にある現今を見ます時、幾多緊要の条件が沢山ありますが、無中で人間を作る教育の振興を計る事こそ最も重大であると思います。

重要なる教育行政にたづさわる私共は、その任務を自覚反省してこの制度の制定せられました目的達成に努力いたし度と念願して止みません。

本村は完全給食の問題といい、中学校整備の問題とい、重要な大問題が沢山あります。

各位の御協力を得まして、将来本村の進む可き方向を誤らない様に見極めて、百年の大計を樹てたいと思います。

論説 夢と実現

館長 木下右治

謹んで新年を祝福する。

凶作の新年とは言え年が改まれば新しい希望も湧く。われ〳〵は常に夢を持ちたい。村を将来平和郷、即ち住みよい村にするには幾多の施設を夢みる。夢の実現は容易でなくても常に夢を掲げている時、歩一歩と之が実現に近づく事が可能である。

町村合併が将来住みよい村となる前程であるならば、幾多の障碍があつても之を実施しなければならない。特に法律によつて慫慂せられる事になつては、好むと好まざるとに関わらず之を積極的に考えねばなるまい。いかなる村と合併するのがよいかは実に大問題であつて、われ〳〵の将来の幸福を決定するものであるから、村民自体があらゆる角度から考えねばならない問題であろう。

中学校整備の問題も昨年から研究されているが、近頃町村合併の問題が台頭して来たのでやゝ見送りの感があるが、之も実現しなければならない問題である。

龍西一貫水路が出来上つて、水の恩恵を受け得られるのはいつ頃か。水の乏しいこの村に水門が開かれて、とう〳〵と流れて来た時の村民のよろこびは例えようのないものであろう。

又飲料水の乏しい本村に於て水道を施設する事は、村民の渇望するところである。時又地区に水道の出来ることは誠にありがたい事であるが、猶全村をうるおす水道をほしい。黒川か閻沢の水を隣村と相はかつて誘導する事はすでに話題に上つている。昨年の赤痢は村民を戦慄させた。大井の川筋に沿つて病菌は下へ下へと繁殖して行つたではないか。どこの村でも婦人の任務を軽減するためお勝手の施設改善が考慮されているが、本村に於ては水道が出来てからの問題であろう。

国民健康保険組合の経営する村立病院もほしい。魅力のある病院が時又あたりに出来れば、龍江、千代、川路、三穂、南原あたりの他村からも患者はぞく〳〵集るであろう。

社会教育機関であり村の綜合機関である公民館の建立も夢みる。そこには資料室があり、村の文化材が陳列され、教養会場となり、講演会場となり、リクレイションの会場となり結婚式場ともなり、村民が気安く参集して、教養と娯楽を享受する事が出来たら、一村の文化が向上するのみでなく村の興論は結集し、住みよい村づくりの大きな役割を果すことが出来るであらう。

猶村に広報宣伝機関がほしい。村内に数ケ所の適地を選び大拡声機を備えたならば、村内隈なく報導が行きわたるであろう。役場からも農協からも学校からも公民館からも放送され、村民は田畑に働きながら村の報導を聞く事が出来るのである。近村ではすでに之を施設するための貯金をしているところさえあるのである。

こう並べてみると大変である。そんな施設をする資金がどこにあると反撥したくなる。然し夢を棄て、はならない。国家の政治もそうした施設が、地方自治団体に出来るような線に沿つての政策がとられなければならない筈だ。

望は大きく前途は遠い。然し年次を追つて歩一歩と之等を実現して行きたいものだ。子供のえがく夢だと笑われてもよい。夢が一歩一歩と実現されて来た事を、過去の歴史は教えている。

豆ニュース

◆続々生る同志会
この程村内に公民館の音頭で数会のグループが生れた。その主なものは次の通り。
スミレ会（家事裁縫）
丘声会（音楽）
カメラ会（写真）
短歌会（短歌）
書道会（習字）

◆防火用貯水池完成
今回、駄科中平恒三郎氏宅附近と小島兵次氏宅近辺の二個所に、消防団員の特別な努力に依つて突貫的工事により完成された。

◆婦人会切換時期三月になる
各種団体の切換時期がまち〳〵な為に不便をきたしているが、この程婦人会では公民館やその他の行政機関と同時期にする為、郡下一せいに三月切換えとなつた。

◆太郎井取入れ口完成
桐林区ののど口とも云うべき太郎井の取入口水門が度々災害を蒙つて困つていたが、この程災害復旧工事として昼夜突貫作業を行い完成した。

◆学校給食部落懇談会開く
小中学校児童の完全給食がさけばれて来た今日本日として、パンを主体とする給食が「是か非か」の一般の与論を結集する為、村PTA主催のもとに十二月中旬部落懇談会を行つた。

◆保育園村営に
村内三ケ所に常設されている保育園がこの程村営となり、予算も十一月十九日の臨時村会で計上された由。

◆農委任期延長
農業委員の任期が二十九年の七月迄当初の丁度一ケ年延長された由。

◆生活改善要綱成る
十二月十九日の郡公民館の会議で郡的な生活改善要綱のアウトラインが決定された。本村としても近くこれをとりあげ研究する由。

更科村の公民館を見て

館長　木下右治

昨年の十一月二十五、六の両日に亘つて、長野県の社会教育課の主催による公民館指導者研修会が篠井町の公民館と、更科村公民館に於て開催された。下伊那からも十ケ村ほどの公民館担当者が参加したが、私は農村公民館の更科村会場へ参加した。

まづ最初に感じた事は、公民館が独立の建物を持つているという事であつた。建物はそう立派なものではないが、（終戦前の青年学校の校舎を改造）よく整備されていた。しかもその位置が、役場と農協と学校がかたまつているが、公民館がその中央に位置を占めている事である。村の中枢機関が村の中央にまとまつていて、その中央に公民館がある事は、これ等機関と容易に連絡をとる事が出来るし、村民が立ち寄る事も便利であつて、こうした所にある事が公民館運動が円滑にその機能を発揮するのに最もよい基本的条件を備えている事になるのである。

公民館の階下の右手には広い事務兼資料室があつて、ストーブが燃えており、館長、主事、講師等の机が並び、黒板の用暦表にはぎつしり予定が記入されていた。この事務室のふん囲気が、すでに公民館の活溌な運動を象徴しているかの如く思われた。

左手には図書館があつて（書籍二五〇〇冊、そう充実した図書館とは思われなかつた）容易に閲覧出来るようになつていた。

二階は会議室兼教室で広間となつていた。

研究会はこの会議室で開かれたまづ村長、農協組合長、教育長（助役）が順次立つて村の実態に就いて説明された。村の立地条件は非常によい。農業、果樹、酪農等の多角経営で、本年度の凶作にも大した影響はないもののように見えた。面積は一三、四八平方粁で人口は五、〇四三人で、地勢上から見ても単純でまとまつたよい村である。

さて予算を見ると、二十八年度の当初総予算が一〇五七万円、教育予算が三六一万円、小学校費が一六三万円、中学校費が八四万円であるのに対し、公民館費が七九万円である。公民館費が村民一人当り一五六円を示している。猶驚くべきことは、視聴覚教具を追加予算として一八万円購入したので合計一〇七万円に達しているというのである。この予算をみていかに社会教育を重視しているかがわかるのである。

専任館長が病気で退職し、目下欠員中であるので、若い青年主事が公民館運営に就いて説明されたが、仲々優秀な主事で、この主事が中軸となつて運営されているようすがうかゞわれたのであつた。

職員組織を見るに、館長（月額六、四〇〇円）主事（月額五、五五〇円）講師（月額五、八五〇円）で、猶その他の洋裁講師や講師補佐等が配置されている。職員給総額が二九万四六〇〇円を示している。

備品の重なるものは、視聴覚教具として十六ミリ映写機、拡声機幻燈機、デープレコーダー、ラヂオ等であり、青年学級用としてミシン六台、電気アイロン六箇等が備えられている。

基本的事業として青年学級の運営に非常に力を入れており、成人学級、婦人学級の運営にも力を入れている。不定型事業として、生活改善、生産教育、視聴覚教育、芸能文化運動、健康教育、図書館運営等に力をそゝいでいる。分館活動も盛んであるとの事であつた

主事の詳細な説明が終つて質疑応答が行われ、次に当村の婦人会青年会、ＰＴＡ、青年学級の受講生代表等がわれ〳〵講習生に加わり、二班にわかれて座談会が開かれ、種々の問題が取りあげられて研究をした。終つて村内の実地見学をした。（新築した中学校、分館等）

かくて村の実態を知り、その村に即して運営されている公民館の実態がわかつたので、之を評価することとなつた。職員、運営審議会、施設、資料、事業の各項目に亘り、規模能率、自主性、関連性の観点から参加者が詳細綿密に採点して、それを図表にあらわし、全機能に対してきだんなく評価したのであつた。評価の綜合平均点は六八点であつたが、之は理想的立場に立つての評価であつたので割合に点数が低かつたのである。

評価や批評の要点をあげてみると、

一、主事は年令が若いがよく活動している。之に対して給与は適正ではない。もつと給与を上げるべきである。
二、運営審議会はあまり活溌だとは云えない。
三、施設は総じてよく整備されている。
四、資料（調査統計等）は村内の実態を統計的に表わす資料等が不備である。
五、事業は総じて活溌ではあるが能率はまだ上つていない。

然し私は（自分の村の公民館等に比較してみての感想も加わるのであるが）との村の公民館の全貌をて、次の如き感銘を受けたのであつた。

公民館が役場、農協、学校、青年会、婦人会等とよく連絡がとれており、一般村民からよく支持され、公民館が村に於てなくてはならない存在となつている事である一〇七万円という予算がこの裏づけをしているのである。分館活動が盛んであるという事も公民館運動が村に滲透して地についているあらわれである。公民館が発足してその歴史が未だ短く、一般的に云つて低調である段階にある時、かかる公民館が存在する事は非常に力強いものであると感じたのであつた。

＝中＝学＝校＝だ＝よ＝り＝

自由研究發表會

敗戦の申し子として生れた中学校も基礎学力が低下したとか、放任主義に過ぎるとか、とかく世評の嵐の中にあつて数え年七才を迎えた。それはたしかに苦難の道であつたが、その間成し遂げた業績も決して少なくはなかつたと思う文部省のお仕着せ教育から生徒の自主自発学習への転換、これはその収穫の大きなものであつた。中学校ではどこでも教科外の活動として、自由研究というものをとり入れている。竜丘中学でも四月新学期に全生徒が個々に何か研究問題を決めて一年間の研究計画を立て、各自の余暇を利用して之を研究して適当な時期にその発表会を開いて全校の職員生徒の批判を仰ぐ仕組になつている。

本年度も第一学期に一回中間発表会を開き、更に去る十二月第二回の発表会を行つた。以下当日の研究を紹介し短評を試みたいと思う

1薬草の研究　一ノ一　関島裕子
山野に自生する薬草をおよそ数十種挙げ、その生育時期、採種処理方法、薬効等について詳しく説明した。一年生としては立派なもの、続けて来年度はその標本を作る事を希望する。

2住居の研究　一ノ二　林えつ子
自作の図表により住居の変遷を説明した。簡にして要を得ている。

3、望遠鏡の研究　一ノ三　沖田安平
初に望遠鏡の原理を自作の図表で説明し、自己独自の設計によつて、実際これを製作した。経過を説明し、豆科学者の意気を示した。ただちようと説明が早口になりすぎた。

4ローソクの科学　二ノ一　林かう　塩沢ゆき　酒井恵子
自分達身近にあるのローソクを研究問題にし、物理化学両方向から解明を試みたもの。大きな標本まで持つて出たが、それを活用しなかつたのが残念

5貨幣の歴史　二ノ二　桐生英寿
「和銅開彌」の古銭から現代まで非常にたくさんな実物標本を示しつゝ、説明した点、満場を感歎させた。この研究の続行を望む

6台所の改善　二ノ三　横山文子
問題の見つけ方はよいが、先生とよく打合せをして、もう少し自信を以つて発表できるようにしたかつた。

7花崗岩の研究　三ノ一　久保田・下田　窪田・加藤
仲々大がかりな研究で、標本の採集や整理に相当の努力が払われている。机の上の研究でなく生きた自然を追求した点もよし。四人の協同でやつた点もよし。

8古墳の研究　三ノ二　関島・斉藤　久保田・高島・木下
これも三年生の貫録を示した立派な研究である。広く郡下に散在する古墳は勿論、竜丘村のものについてはていねいに実測してその形態を研究した点、専門家にとつても参考になる。説明の態度、声量等も申分なし。

9台所の改善　一ノ一　今村善一
男の子が台所…などと笑つてはいけない。台所こそ人間活動の源泉をなすもの、今後更に研究を続けて欲しい。

10デザインの研究　一ノ二　下平鈴代
女性らしい研究、今後も研究を続けて欲しい。

11作文について　一ノ三　下平洋子
研究が自分ものになつて居てよかつた。発表も一年生として上々。原稿紙の書き方を示した図表の出来はすばらしい。

12ことばと文字の歴史　二ノ一　林・原・鈴木・今村
広く世界に目を広げてことばと文字がどのようにして用いられ作られて来たかを説明したもの

13衣服の研究　二ノ二　松葉八重子
発表の態度は非常に良かつた。太つた人・やせた人・背の高い人・低い人、それ〴〵に調和させるためにはどの様にデザインしたらよいかを図表によつて説明したもの、スマートになりたい人は大いに参考になる。
発表の態度良

14模様あみの基礎について　二ノ三　下平澄子
古くなつた毛糸の利用法から発展した研究で、いくつかの自作の標本を示して説明した点よかつた。今後の研究を望む。

15文学について　三ノ一　小林愛子　代田奈津江
万葉集に始まつて隆々発展して来た日本の文学の歴史をまとめたもので、極めて地味な仕事と取り組んだ点はよい。ただ問題が一寸大きすぎた感があつた。話術は満点

16土の研究　三ノ二　岡村・関島　木下
郷土竜丘村の土壌の生態を明らかにしようと試みたたもの。しかも手際のよい土壌実験までとり入れた点敬服に価する。更に種々の土壌に対する適性作物の研究まで発展させたい由、今後に期待する所が大きい。

（中学校学芸部投）

懸命なクラブ員

実績發表會

村の4Hクラブ協議会と農業委員会との主催による4Hクラブ実績発表会は十二月十九日農協本所に於いて盛大に行なわれた。

数十年の凶作年の中に於いて互に計画を立て、数多の苦悩の路を開拓し、新しき問題を観察しキヤツチして尊き成果としてまとめた実績の発表会だけあつて、彼等の語る一言、演ずる手そのものに若さと農村を想う心がみなぎつていた。

この大会の出場者は各クラブの予選を通過した十一チームによつて行なわれ、近村の普及員、郡の生活改良普及員等九名の審査員によつて、次の四チームが入賞と定まつた。

プロジエクトの部
○トマトの果実に起きる疫病とボルドー液との関係　鈴岡クラブ　中平明人
○水稲の生産費調査　上川路クラブ　塚平仁司

デモンストレーションの部
○屑米の調理法　鈴岡クラブ　折金久子　大平とし子
○屑米利用のおやつの作り方　桐林クラブ　塩沢以鈴　中島喜代子

凶作に対するヒット

農協に製パン機の設置

農協では昨年度の凶作を見通し他村にさきがけして、いち早くパン食奨励を企図し、経済連の川中島工場より優秀な電気製パン機を安価に購入して之を装置した。

フルに運転すれば日に三千食は出来るという。仲々おいしいパン（コツペパン、クリームパン、アンパン）が出来ている。委託加工が建前だが、交換条件として、小麦一〆匁でコツペパン十四個、大豆一〆目でコツペパン三十一個である。（加工料不要）食券と引きかえられるのでいつでもパンを手に入れる事が出来る。（食券は十枚綴り、二十枚綴り、三十枚綴りの三種類がある）

パンは農協の本所支所又は各区の販売店で食券と交換する事が出来るのである。

日本は食糧が不足なので、年に一千八百億円という多額の食糧を輸入している。主なる食糧は小麦粉と米であるが、米の生産量は世界に於て限られており、小麦の生産量は豊富である。随つて米と小麦とでは価額に於て格段の差がある。米食のみに依存する習慣を持つ日本人は、今後大いに粉食を取り入れねばならない。

この凶作を契機として、農協が陳頭に立つて、うどん加工場を整備してその生産量を増し、製パン機を装置してパン食の需要に応ずる施設をした事は大ヒットと云うべきであろう。

粉食

屑米と副食物の＝調理講習＝ 婦人學級の活躍

婦人学級は凶作に即応する食生活を研究すべく、大いに活躍してその成果を挙げている。

まづ十二月五日に農協に於いて生活改良普及員高坂先生を講師として実習した。各学級より五名宛の代表者が出席して熱心に実習した。

次いで各学級に於いて各戸に徹底するよう、各戸より一名宛の婦人が参集して実習した。

十二月十日時又学級　十二月十三日駄科学級　十二月十四日長野原学級　十二月十九日上川路学級　十二月二十日桐林学級

講師は青年学園の矢沢先生を依頼した。出席者はどの学級も非常に多く、意義のある講習が出来た。

願わくばこの調理が各家庭のお勝手で実践され、米を喰い出し栄養の向上されんことを願つてやまない。

（写真）上は4HC成績発表会　下は製パン機

十二月詠草

公民館歌会

○小さきは小さきままに花つけて鶏頭草の葉は色づきぬ　橋爪　丘の人
○十二月のヒムロ読まむと傍に置ぎて急ぎつつ今宵足袋をつくろふ　下平幸恵
○この朝登り来りし丘畑に乾きし麦のふけをはらふも　岡村美文
○丈ながきかぶらを洗ふ池水の澄みしそこひに枯葉が動く　木下きの
○蒼白きウインドー内にクリスマスツリー子に与えたき服や靴下　北沢新太郎
○不規則な街の家並（やなみ）が宵月のかかれる空に融合しつつ　中田美稔
○山脈も田の面も黒ぐ夕せまり十六夜の月待ちて稲をかける　塩沢義男
○芋掘りて荒れしるき手を気にしつつ野良夜着かえて研究会に来し　折金久子
○炭を焼く煙しらじら立つ見えて木枯寒く峡をおほひぬ　今村清松
○塀沿ひの素枯れし山茶花にみそさざい今朝も来りて忙しく去りぬ　木下右治

本村28年の五大ニュース

大暴水害　損害六七八万円

七月十七日より二十日迄の暴雨は南信を荒しまくり、吾が竜丘もその被害は大きかつた。此の大増水も天竜川は二十年十月の増水に次いでの大水であつたが時又は昨年出来た新しい護岸工事によつて救われたが、完成しない天竜橋したから水は将に堤防をのり越そうとした。消防団は鐘をうつて出動し、砂の山を築いて漸くその危機を脱した。われ〳〵は自然の暴威を喰いとめる土木施設のいかに大切であるかを知り、その事業に協力せねばならない。

カルニユー光學時又へ移轉

昨年以来二ケ年に亘つて工場移転の候補地を農村工業の一端として研究中の村対策委員会は、最初に学校附近の前の原地籍を挙げて居たが、中途交換を断念し、時又八王寺社裏の畑地帯を選定し、土地耕作者、所有者等の交渉幾多の難関はあつたが、地元商工会、区関係者の協力を得て移転された。同会社はカルニユー顕微鏡専門一貫作業として光学機械では本邦の工場関係でも首位に挙げられるに至り、加藤社長の経営手腕と人格の統率力とは全従業員の団結を高めて今後の発展が期待されて居る

完成新しい稚蠶飼育所

従来本村飼育所は産業組合製糸時代に於ける貯繭倉庫を改造利用して来たが、幸いとの倉庫の構造が厚壁土蔵造にてこの飼育に適合し二棟の倉庫の改造に依つて今日迄の飼育が出来然も好成績を納め得る事が出来た事は誠に喜ぶ所であつた。然るに本村産繭額は急速に増加し狭隘を感ずるに至り、本村出身の木下建設の請負によつて予定通り進行し、理想的な設備を以つて竣工した。

新館長木下右治氏を迎える

前館長の北沢小太郎氏の後任として、元本村中学校長であり、初代公民館長であつた木下右治氏が就任した。

農協の製パン機の設置

未曾有の凶作にあい各面からその対策が協議せられ、まず食生活の改善を図り、他村にさきがけていち早くパン食奨励を企図し、経済連の川中島工場より優秀な電気製パン機を購入して設置した。